

手作り楽器を使用したリズム遊び動画の検討 *Video Production about the Rhythm Play with Handmade Musical Instruments*

加藤 智也 (KATO Tomoya)
(名古屋芸術大学 人間発達学部)

1. はじめに

現代社会において子どもを取り巻く環境が大きく変化している。核家族化や共働き世帯の増加により、家庭内のコミュニケーションが減少するとともに、スマートフォンやゲーム機器などが家庭へ普及したことにより、家庭内で身体を動かす機会や楽器に触れる機会が減少している。そのため、親子のコミュニケーションが希薄となるだけでなく、リズムを正確にとることができる子どもとできない子どもとの差が生じている。

そこで本研究では、親子で楽しくコミュニケーションを取りながらオリジナル楽器を手作りし、その楽器を使ったリズム遊びができる動画を、身体的発達を考慮し年齢別に分けて制作した。制作した動画を通じて、楽器に触れる機会を増やすことで、子どもが音楽に興味・関心をもち、心と身体の発達や成長へとつなげることができる。さらには、親子で楽器の作成やリズム遊びを取り組むことにより、親子間のコミュニケーションを増加させることができる。

手作り楽器を作成するための動画やリズム遊びの紹介動画は既に存在するが、それらに関連づける動画はない。さらに、手作り楽器の作成動画は、子ども向けや親子向けのものがなく保育者向けのものばかりであり、楽器作成のみでその楽器を利用したリズム遊びまで展開しているものはない。一方で、リズム遊びの紹介動画は、手作り楽器を使用したものではなく、発達に合わせた年齢別のものはない。

こうした既存の動画と差別化を図るため、家庭内にある廃材等を使用して親子でオリジナル楽器を手作りすること、リズム遊びでは手作りしたオリジナル楽器を用いること、子どもの身体的発達に合わせた年齢別のリズム遊びにすること、に重点を置き

動画を制作し、未就学児をもつ家庭で実践してもらうことでその効果を検証した。

2. 子どもを取り巻く環境の変化

2019年において共働き世代は1,245万世帯となっており、1980年と比較して約二倍に増加している(厚生労働省、2020)。

未就学児をもつ保護者34名にアンケート調査を実施(令和2年5月15～31日)したところ、「普段子どもとのコミュニケーションをとる時間はありますか?」という項目において、「十分にある」が5.8%、「ややある」が11.8%、「あまりない」が82.4%であった。このことから、共働き世帯の増加に伴い、十分に子どもとのコミュニケーションをとれている家庭は少ないといえる。

一方で、9歳以下の低年齢層の子どもの64.0%がインターネットを利用しており、「何にスマートフォンを利用していますか?」という調査においては、動画視聴が90.6%と突出して多い結果がでてくる(内閣府、2021)。また、前出の保護者アンケートにおいても、「子どもがスマートフォンやゲームなどの電子機器に触れる機会が多いですか?」という項目において、「とても多い」が76.5%、「多い」が23.5%にのぼった。このことから、スマートフォンにおける動画利用は子どもの生活のなかに確実に浸透し、動画は子どもに対する影響力が大きく、訴求効果が非常に高い手段と考えられる。

3. リズム遊びの重要性と現状

リズム遊びとは、歌や音に合わせて手指や身体を動かす遊びのことであり、以下の3つの特徴があり、子どもの成長には欠かせない能力・機能・性質

を身につけることが可能である。

- ・音に合わせて手指・体を動かすことにより、音感がよくなり運動機能が向上する
 - ・音にタイミングを合わせることにより、集中力・表現力が身につく
 - ・人と合わせることにより、社会性・協調性が身につく
- そこで、子どものリズム感の現状を探るため、未就学児をもつ保護者34名と保育者18名にアンケート調査を実施した（令和2年5月15～31日）。

未就学児をもつ保護者に対し、「子どものリズム感についてどう感じますか？」という項目から、「リズム感はあると思う」と回答した者はなく、「リズム感はややあると思う」が17.6%、「リズム感はありません」と回答した者が35.3%、「リズム感が無いと思う」が47.1%という結果を得た。そして、「リズム遊びを家庭で行ったことがありますか？」という項目から、「よく行う」が11.8%、「たまに行う」が29.4%、「まったく行わない」が58.8%という結果であった。さらに、「家庭で子どもが楽器に触れる機会がありますか？」という項目では、「頻繁にある」と回答した者はなく、「ややある」が11.8%、「あまりない」が70.6%、「まったくない」が17.6%という結果であった。以上のことから、子どもは家庭でリズム遊びをする機会や楽器に触れる機会が少なく、子どものリズム感がほとんどないと思っている親が多いことがわかった。

保育者に対し、「子どものリズム感についてどう感じていますか？」という項目から、「子どもにリズム感の差をそれほど感じない」が22.2%、「子どもによって差があると感じる」が77.8%という結果を得た。そして、「保育にリズム遊びを取り入れた方がよいと思いますか？」という項目から、「とても思う」が88.9%、「少し思う」が11.1%という結果であった。以上のことから、保育者はリズム遊びの必要性を強く感じており、同年齢の子どもの中でリズムを取ることができる子どもとできない子どもの差が大きくあることがわかった。

4. 手作り楽器を使用したリズム遊び動画の提案・制作

保護者は子どもとコミュニケーションをとる時間の減少や楽器に触れる機会がないことを感じており、保育者は子どものリズム感に差があると感じている、そして、多くの子どもがスマートフォンを利用し動画を視聴している現状から、スマートフォンで視聴することを前提に、親子で楽しくコミュニケーションを取りながら手作りしたオリジナル楽器を使ってリズム遊びができる年齢別の動画コンテンツを提案する。ポイントは、次の3点である。

- (A) 家庭内にある廃材等を使用して親子でオリジナル楽器を手作りする
- (B) リズム遊びでは手作りしたオリジナル楽器を用いる
- (C) 子どもの身体的発達に合わせた年齢別のリズム遊びにする

そして、この動画を通じて、楽器に触れる機会を増やすことで、子どもが音楽に興味・関心を持ち、心と身体の発達や成長へとつなげることをねらいとする。

提案した動画は下記の手順により制作した。

①年齢の区分け

子どもの身体的発達を考慮し、0, 1, 2 歳児、3, 4 歳児、4, 5 歳児、5, 6 歳児の4つに分類した。0, 1, 2 歳児向けには手を使って親子でコミュニケーションをとることができるリズム遊びとし、3 歳以上には手作り楽器を使用したリズム遊びとした。

②リズム遊びで使用する音楽の選定

子どもだけでなく大人にも馴染みのある曲とし、年齢と季節を軸に、8 曲を選定した（表1）。

表1. 選定した曲

	0. 1. 2 歳・3. 4 歳	4. 5 歳・5. 6 歳
春	ちょうちょ	ぶんぶんぶん
夏	かたつむり	たなばたさま
秋	どんぐりころころ	山の音楽家
冬	ジングルベル	雪

③曲の録音

電子キーボードを使って子どもがリズム遊びをしやすい速さで演奏し、PC音源として録音した。録音ソフトには、GarageBandを使用した。

④手作り楽器の考案・作成

家庭内で準備することができる廃材等を材料にし、子どもに危険なもの（刃物など）は使用しなくても作れるよう配慮しつつ親子で一緒に作れるよ

う楽器をアレンジし、「ヤクルトマラカス」「牛乳パックカスタネット」「お菓子の箱太鼓」の3種類のオリジナル楽器を考案した（図1）。マラカスはヤクルトの容器、ペットボトルのキャップ、ビーズ、マスキングテープを使って、カスタネットは牛乳パック、ペットボトルのキャップ、クレヨン、テープを使って、太鼓はお菓子の箱、割りばし、折り紙、紙粘土、のりを使って、それぞれ作成した。



図1. 考案した手作り楽器

⑤撮影

スマートフォンで手元を撮影するためのスタンドを自作し、楽器を手作りする様子を撮影した。そしてこのスタンドを利用して、PC音源に合わせてリズム遊びをする様子も撮影した（図2）。

ら作ることができるよう速さを一定にし、字幕を平仮名・片仮名表記にすることで子どもでも視聴しやすいものにした。一方、リズム遊び動画は1曲に対して1分30秒以内とした。また、動画を見ながら歌うことができるように、歌詞を仮名・片仮名で表記し、楽器を動かしたり叩くタイミングに合わせて字幕に赤丸を表示した。さらに、サムネイルでどの季節のリズム遊びか一目でわかるようにし、動画のはじめには使う楽器について説明した（図4）。



図2. オリジナル楽器の手作り動画撮影の様子

⑥編集

楽器の手作り動画、リズム遊び動画ともに、PC上で編集を行った。編集ソフトには iMovie と Adobe Premiere Pro を使用した。楽器の手作り動画は3つの楽器について飽きさせないようにそれぞれ10分以内とした（図3）。また、動画を見なが



図3. 制作したオリジナル楽器の手作り動画



図4. 制作したリズム遊び動画

⑦手作り楽器作成マニュアル (PDF) の作成

文字でゆっくり確認したい場合や印刷して見た場合や動画が再生できない場合などに活用できるよう、動画のスクリーンショットをベースに説明したマニュアルを作成しPDFとしてまとめた (図5)。



図5. 制作した手作り楽器作成マニュアル

⑧ホームページの制作・公開

オリジナル楽器の手作り動画とリズム遊び動画を載せるため、ホームページを制作した (図6)。ホームページは専用エディタのWixを使用した。トップページでは、リズム遊びについての解説を掲載することで、リズム遊びの重要性や効果について説明した。オリジナル楽器の手作りのページでは、動画と手作り楽器作成マニュアル (PDF) を掲載するとともに、作成する際の注意事項を掲載し安全に配慮した作成ができるよう説明した。リズム遊び動画のページでは、動画を掲載するとともに、年齢別の身体的発達状況の説明を記載し、動画の下には使用している楽器を載せ、楽器と関連づけた。

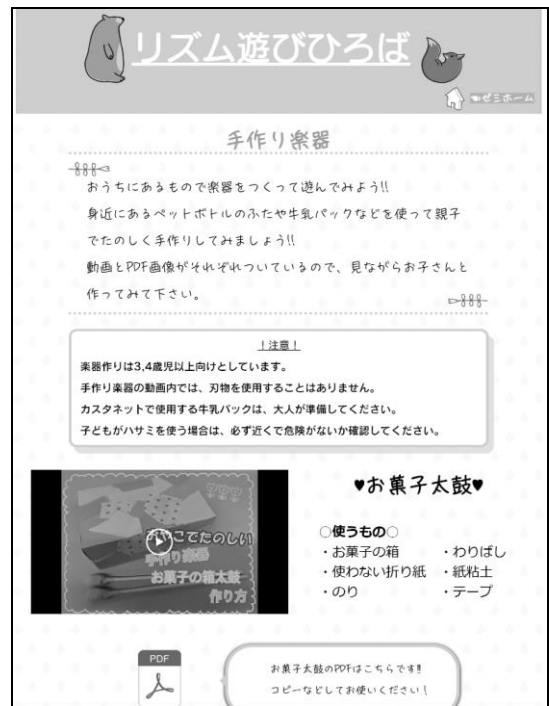


図6. 制作したホームページ

5. 実践・評価と考察

制作した動画について SNS で拡散し、未就学児を持つ保護者 41 名に動画を閲覧・実践してもらい、制作のポイントとした (A) 家庭内にある廃材等を使用して親子でオリジナル楽器を手作りする、(B) リズム遊びでは手作りしたオリジナル楽器を用いる、(C) 子どもの身体的発達に合わせた年齢別のリズム遊びにする、の3点を中心に動画の有効性を検証するためアンケート調査を行った (令和2年11月20

～30日)。

(A)に関連して「子どもと一緒に手作り楽器を楽しく作成できたか?」という問いに対しては全員が「とても楽しく作成できた」と回答した。また、自由記述では「子どもと一緒に取り組むことができ、有意義な時間であった」、「動画だけでなくPDFでも同様の説明があり、作るうえで助かった」、「身近な材料で手軽に取り組めた」、などの意見があった。このことから、子どもだけでなく大人も楽しむことができることができ、家庭内にある廃材等を使用して親子で楽器を手作りすることは有効であったといえる。

(B)に関連して「手作り楽器を使用することで、楽器を触る楽しさが伝わったと思うか?」、「親子で楽しくリズム遊びができたと感じたか?」の問いに対しては全員が「とても思う」、「とても感じた」と回答した。また、自由記述では「父親が子どもとコミュニケーションをする良い機会になった」、「今後リズム遊びを取り入れて子どもに音楽の大切さを教えていきたいと思った」、などの意見があった。このことから、自ら手作りしたオリジナル楽器を使ったリズム遊びは、親子のコミュニケーションを楽しみながら深めることができるといえる。

(C)に関連して「子どもの年齢に合ったリズム遊びであったか?」という問いに対しは87.8%の保護者が「とても思う」と回答し、「子どもがリズム遊びを通じて成長・発達できると感じたか?」の問いに対しては95.1%の保護者が「とても感じた」と回答した。また、自由記述では「年齢別になっているのがよかった」、「発達に応じて動画が用意されているのがよかった」、などの意見があった。このことから、子どもの身体的発達に合わせて年齢別にリズム遊びを構成したことは有効であったといえる。

さらに、動画やホームページ、PDFの内容については95.1%の保護者が「とても分かりやすかった」と回答し、動画の速度や長さも92.7%の保護者が「適切」と回答した。そして、全員の保護者が動画はとても役に立ち、子どもにとっての音楽の大切さ

を実感できたと回答した。自由記述欄にも高評価のコメントが多く寄せられ、手作り楽器やリズム遊びの曲をもっと増やしてほしいとの声が聞かれた。

以上のことから、制作した動画は、オリジナル楽器を手作りし年齢別でリズム遊びに使用するより、子どもに楽器に触れる機会を提供し音楽の興味・関心を持たせることを可能とし、親子で一緒に作って遊ぶことによりコミュニケーションを深めることができたと考えられる。

6. まとめ

本研究では、スマートフォンなどにより動画が普及するとともに、家庭内でのコミュニケーションが減少するなど、子どもを取り巻く環境が変化するなか、手作りのオリジナル楽器を使用したリズム遊びについて年齢別に動画を提案・制作を行った。その結果、家庭内にある廃材など身近な材料を使って親子で手軽に楽器を手作りしたり、その楽器を使って年齢別の発達に合わせたリズム遊びをする機会を提供することにより、子どもが音楽に興味・関心を持ち、親子間のコミュニケーションを深めることにつながることを確認し、制作した動画の有効性を実証した。

謝辞

本研究の遂行にあたり、アンケート調査にご協力をしてくださった保育者および未就学児をもつ保護者のみなさまに深く感謝致します。

参考資料

- [1] 総務省情報通信政策研究所、『未就学児等のICT利活用に係る保護者の意識に関する調査報告書』、2015
- [2] 総務省統計局、『労働力調査(詳細集計)』、2021
- [3] 内閣府、『令和2年度青少年のインターネット利用環境実態調査』、2021
- [4] 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)、『低

年齢層の子供のインターネット利用環境実態調査報告書』、2017

[5]ベネッセ教育総合研究所、『第2回 乳幼児の親子のメディア活用調査』、2017